５つの森林活動

みなさまの参加を
お待ちしております

小手澤の森

第１・３日曜日

知足の森

第１・３日曜日

相模湖・嵐山の森
小原本陣の森
草莽荘の森
不定期活動

News Letter

NPO法人緑のダム北相模
midorinodam.jp

No.527-528
知足の森、新しい区画の作業を始めました

【新年のご挨拶】

新型コロナ下の一年と今後への対応

昨年を振り返ってみると、新型コロナの大流行による緊急事態宣言もあり、各種イベントの中止・定例活動の一部自粛等、「無理せず、楽しく、休まず、 ボチボチと・・」という会のモットーも少なからず影響を受けざるを得ず、メンバーの皆様もストレスがたまった一年だったのではないでしょうか。

こうした状況のなかにおいても、新たな中学生メンバー２０名ほどが継続的に活動に参加してくれたこと、東京学芸大学との間伐材活用の連携が進展したことに加え、[1]地元中学校への出前授業、[2]体験学校、[3]東海大学高輪高校のスーパーサイエンスハイスクール等、現地での活動を実施する

緑のダム北相模は相模原市内で活動する森林ボランティアです。急がず、無理せず、楽しく、休まず、 ボチボチと・・。

ことが出来たことは、厳しい環境のなか、皆さんの努力が実を結んだものと実感しております。
　年明け後も新型コロナ流行の勢いは衰えを見せず、今後の推移を見守りながらの活動を余儀なくされることとなりますが、緑のダムの理念に基づき活動を継続・発展させていくことの意義は今まで以上に大きくなっているように思われます。
　地元小原地区と関わりを持った幅広い活動を通じ、地域活性化へ貢献するという当会の目標を少しでも前に進めて行くためには、地元からの要請に応えるだけでなく、更なるアイデアの必要性を感じており、皆さんのお知恵もお借りしながら
[1]間伐材を活用した薪割イベント等による親子で参加できる場の提供
[2]小原地区の植生データ整理、観察会の実施
といった具体的活動による参加者増加策検討を開始するとともに、安全・作業効率を重視した技術の向上、備品・器具の整備等についても更なる充実を図っていくつもりでおります。
　以前にも触れたかと思いますが、組織を継続するためには、立ち上げを上回る努力が必要とされるともいわれます。当会存続のためには、当会活動を支援して頂いている団体のご支援と当会メンバーのご協力が欠かせません。
　当面多くの課題はありますが、今何をすべきなのかということに意を払い、皆さんの知恵をお借りしながら、頑張っていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

川田　晃（本会、代表理事）

【定例活動報告】

小手澤の森（仮称）
知足の森

第１日曜日の活動より

　コロナウイルスにより活動の制限が続いていますが、中学生を主体とした若者の森は元気に活動を継続しています。学校自体が「密な生活」を強いられているので森の中の方がずっと居心地がよく、みなのびのびしているように見えます。今回は、知足の森での基本的技術向上のためのボサ刈り、小手澤の森の東側のスギヒノキ林の間伐木の選定（マーキング）を行いました。次回までに地主さんがチェックくださるということでまずは仮のマーキングです。大学生になったメンバーがあれやこれやと指導してくれながら、間伐するしないの議論をしながらの作業となりました。小手澤の森の竹林整備もしながら、環境省のエコライフフェアのためのインタビュー撮りなど同時並行の活動でしたが、一人一人が森で動けるようになったのでこのような並行活動も行えるまでに成長しています。さらにゆずも大量に熟して、最後に収穫体験。家庭科の部活に入っている生徒がおり、ゆずジャムを作ってみることになりました。今回は様々な森の楽しみがある定例活動になりました。

第３日曜日の活動より

　今回は前回のマーキングについて地主さんがチェックくださるということで森の入り口で待ち合わせ。これは太いから残しておきたい、これとこれは追加で切って欲しいとリクエストをいただきながら、森を１周歩きました。そのまま、２、３人ごとに切れる木の間伐を行いました。技術はまだまだですが基本的な作業の知識、動きは習得していて、しっかり安全に間伐することができました。午後からは知足の森に隣接する新しい区画の間伐。ここはこの前の台風、大雨でお寺の墓地に土砂が流れてしまっていました。当面の仮の作業区画を設定、その中の本数カウントをし、３分の１間伐で１００本切らねばならないことがわかりました。木自体は本当に成長が悪く細いので、一人一本切れる感じで、個々人の技術向上にはもってこいの区画です。早速１０ 本以上間伐し、森の入り口付近に土留として積む作業を続けています。

宮村　連理（本会、副理事長）

桜井尚武の森のコラム

「マサキ（*Euonymus japonicus*）」

図1 マサキ

20091031湘南海岸砂防林

図2 マサキの花

20070616原当麻神奈川

図3 熟した赤い実

20201220与瀬相模湖

図4 最前線のマサキ

20100514湘南海岸砂防林

海岸に近い林によくみられる常緑の大型低木で時に5mを超えるものがあります。北海道南部から九州、沖縄、小笠原、朝鮮、中国と暖帯に広く分布します。江の島から大磯にかけての海岸林のクロマツ砂防林の林内にも多く見られます（図1）。5月から6月にかけて淡緑色の4枚の花弁の両性花を開きます（図2）。常緑で小さな鋸歯のある厚く光沢のある5~6cm内外の中くらいの大きさの葉はニシキギ属共通の対生です。

ニシキギ科の他の樹種同様に晩秋には熟した赤い実を稔らせます（図3）。この実はツグミ、ムクドリ、ヒヨドリ、メジロ、ハト類など多くの鳥類の重要な食物で、鳥に食べられた後は糞として排泄されてあちこちに分布を広げられることになります。

マサキには「正木」を宛てる説が多く広く受け入れられています。語源を調べると「正木、真青木、真幸、籬木」などの転化というのがあって、重要な植物だと思われていたと思われます。どう重要かというと、身の回りの、特に生け垣などに重用されて庶民の身近にある役に立つものということなのではないでしょうか。

海岸植生の特性として潮風に強く砂地のような過酷な環境に耐えるという強靭さ、さらに移植や剪定にも耐えて樹形が損なわれないという特性は庭木には欠かせないものです。その上大きくなりすぎない端正な樹形や綺麗な緑葉、樹木の下方の枝や葉が枯れ上がりにくいこと、赤い果実、水分を多く含んで耐火性があるなどが庭木や垣根に重宝されてきた理由なのでしょう。

加えて、湘南海岸砂防林の最前線でも厳しい環境に耐えて後背の松林を守る勢力として頑張っている姿が見られます（図4）。

桜井　尚武（本会、会員）

【若者の森づくり】

GREEN TECH ENGINEER LAB

今日の活動は、午前と午後に分けて行いました。午前は、前回伐る木を印で選んだので選定した木を伐る作業を行いました。今回は、初めてロープの使い方を先輩や先生から教わりましたが、結び方は難しかったので練習を積み重ねていきたいです。また、グループごとに木を伐ったので、受け口、追い口をする人、下草を刈る人、ロープを引っ張る人と作業を分担したので効率よく作業が進められました。午後は、お寺の裏にある山に行きこれから作業する場所の確認、測量、木の数などを調査しました。お寺の裏の木は、長い間放置されていたのか日光が当たらず植物が殆ど見当たらない暗い場所でこれからこの場所で作業をして森を回復させると考えるとやりがいがあり、楽しみです。

今年最後の活動でしたが参加人数は普段より少ない印象でした。新年の活動は、去年培った経験と知識で取り組みたいと思います。

金子　将英
（GREEN TECH ENGINEER LAB　中学１年）

僕は、整備されていない区画と聞いたとき、どんな作業でどんなふうに進めていくか全く想像が

つきませんでした。初めて知足を見たとき、きちんとできるか不安でした。

　最初にやったことは、森全体の大きさの把握で、全てはかるのに結構時間がかかりました。次にやったのは木全体の本数の把握で、最初はグダグダだったが、みんなで知恵を絞り、無事木の本数をはかれました。その次に一人ずつ木を切りました。いままでは、作業のように木を切っていたが、今回このような作業をやってから木を切ると、どれだけいままでの作業がやりやすかったのかということを実感しました。

　これからは、森を整備し、効率良く森に光を入れて自分も後のことを考え、森を整備していくことが大切だと思いました。

久保　真紘

（GREEN TECH ENGINEER LAB　中学１年）

またGTEラボでは１２月末に「間伐材を使った自分で使うものを自分でデザインして自分で加工する」ワークショップを行いました。来月号でご報告します。

NPO法人
緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模

現地事務局：〒252-0172　相模原市緑区与瀬本町12　かどや食堂内

支援団体：セブン-イレブン記念財団
積水ハウスマッチングプログラム、国土緑化推進機構
コンサベーション・アライアンス・ジャパン

協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、
東京学芸大学環境教育研究センター、
（社）東京学芸大EXPLAYGROUND推進機構、
（社）さがみ湖 森・モノづくり研究所、ウッドバンク㈱

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前に集合です。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、昼食

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

緑の募金　一般財団法人 セブン-イレブン 記念財団　SEKISUI HOUSE MATCHING PROGRAM　CAJ Conservation Alliance Japan 一般社団法人 コンサベーション・アライアンス・ジャパン